

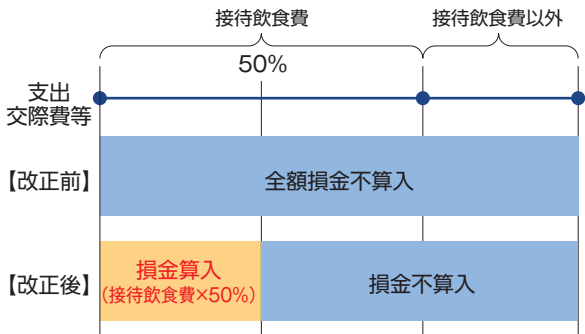
法人の交際費等の損金不算入制度について

1. 法人が支出する交際費等の額のうち、接待飲食費の額の50%相当額を損金に算入することが認められるようになりました。法人の交際費等の損金不算入制度に関する規定(措法61の4)が改正され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から適用することとされています。

中小法人は、現行の特例措置で交際費等の額を年800万円まで損金に算入することが認められています(定額控除限度額)が、その他の法人については、交際費等の支出は原則、全額損金には認められません。ただし1人当たり5,000円以下の飲食費を交際費等の範囲から除外して、損金に算入することが認められています。

そして、今回の改正で接待飲食費の総額の50%相当額を損金に算入することが認められるようになりました。この接待飲食費の要件は、飲食その他これに類する行為のために要する費用(社内飲食費を除く)であり、次に掲げる事項を記載した書類を保存していることが必要となります。

- 飲食等のあった年月日
- 飲食等に参加した得意先等の氏名又は名称及びその関係
- 飲食費の額並びにその飲食店、料理店等の名称及びその所在地
- その他、飲食費であることを明らかにするために必要な事項



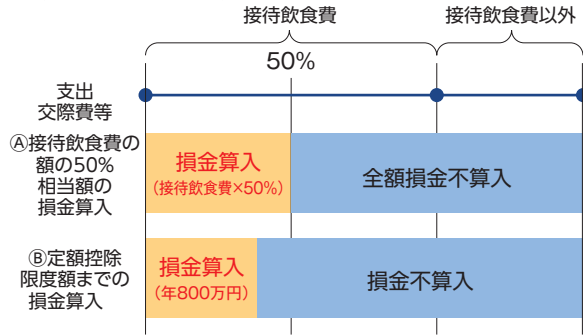
一方、1人当たり5,000円以下の飲食費を交際費等の範囲から除外する場合の記載事項には、この他に参加人数の記載が必要になりますが、その他の内容については同じです。また「飲食その他これに類する行為のために要する費用(社内飲食費を除く)」という飲食

費の定義についても同一の用語であることからその対象範囲も同様と考えられます。ですが今回の改正にある接待飲食費は、5,000円以下の飲食費を除外した額が対象となるため、新しい勘定科目を設定して別々に集計する等、事前の対策が必要になります。

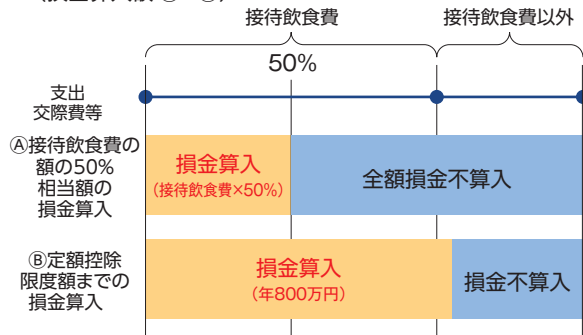
2. 中小法人は、上記1.の接待飲食費の額の50%相当額の損金算入と、定額控除限度額までの損金算入のいずれかを選択適用できるようになりました。

(接待飲食費の額の50%相当額の損金算入と定額控除限度額までの損金算入との比較)

(1) 接待飲食費の額が年1,600万円を超える場合
(損金算入額: ① > ②)



(2) 接待飲食費の額が年1,600万円以下の場合
(損金算入額: ① ≤ ②)



このコーナーは、税理士、公認会計士によって構成される税務実務家の研究グループが担当しています。このコーナーに関するご質問は、下記の事務局までお願いいたします。

- 税理士・公認会計士 香本 明彦・谷口 貢
- 税理士
植田 順・堀口 裕弘・木戸 義人・森川 敏行・松井 克行
萩 恒夫・萩原 政宏・岡本 弘之・今西 正二・徳山 智子
縄田 浩昭・中川 秀夫・埜崎 静子・新見 和也・古瀬英美子

伏研会事務局
京都市伏見区桃山町養斉19-14 植田順税理士事務所内
TEL:075-604-3160 FAX:075-605-0185

Gallery Stand

ギャラリースタンド

女子アマの実力、プロの賞金に換算すれば…… 総勢18人で6200万円強、トップは2000万円弱



女子ツアーが大いに盛り上がりつつある。というのも若いアマチュアたちがプロの居場所を脅かし、猛威をふるっているからだ。ギャラリーやゴルフファンにとってはその試合展開は面白く、プロゴルフを指す「シニア」としても興味ある話題だ。アマチュア規定があり、せつかくの優勝や上位入賞も名譽だけに終わってしまうのが現実。そこで不謹慎とは思いつつ、彼女たちの実力をプロの賞金に換算してみた。

基準はサントリーレディスまでの15試合。賞金総額は12億8000万円。これをLPGAのトーナメント規定に

より獲得賞金を算出。トップは、勝みなみ選手。KKT杯ハネレインの優勝1800万円に加えてサロンパス33位、サントリー24位を加えると2000万円に迫る勢い。2位は上位入賞が多い森田遥選手で約1500万円。3位は予選通過した3試合で4位6位15位と健闘した柏原明日架選手の1000万円弱。760万円を稼いだ？堀琴音選手は、アマチュアとしては84年の中島恵利華以来30年ぶりの3試合連続トップ10入りを果たしている。

これを賞金ランクで見ると、勝は19位、森田25位、柏原37位、堀50位と賞金シード圏内にいる。出場した試合数がプロの半分程度ということを見ると、これはもはやランキング以上の実力といえるだろう。

プロの不甲斐なさを嘆くべきなのか、新しいスターの誕生や日本のゴルフが世界に向けて伸びしろを持っていることを喜ぶべきか複雑だが、世代交代は確実に進んでいること、ゴルフの水準が確実に高まっていることは間違いない。

米ツアー選手のなかで高学歴化が進んでいる。文武両道は日本文化の誇るどころであるが、翻って現在の日本で



はどうだろうか。一部の大学では『ゴルフ学部』と揶揄され、授業に顔も見せない猛者もいるという話を聞く。日本のプロやアマチュアが世界をフィールドに活躍するためには人間教育をも受けたアスリート達の育成が必要だ。高学歴化は時代の流れだが、社会人としての資質の向上、アスリートとしてのレベルアップも望まれる。

シニアの大会やアマチュアの各種大会には親子同伴で来られる場合も多いが、親の権威を振りかざすことなく、子どもの成長を優しく見守り、伸び盛りの子どもの芽を摘むことだけは避けたいものだ。